

愛知スキー協通信 No.297

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会 2019年 11月1日

〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 Tel.052-201-4801 (Fax 共)

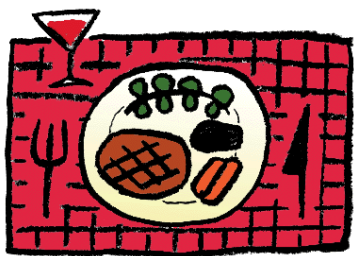
e-mail : aichiskikyokai@yahoo.co.jp

<http://aichiskykyou.yukigesho.com/>



編集：イエティスキークラブ

48期 を愉快に いこう



文責 愛知スキー協理事長・技術部長兼任 寺田 康男
(みんなで、一つ上の指導員を目指そうプロジェクトメンバー)

「行事はビラ作りで始まり

次回ビラを創って繋げる」

行事内容は^{こだわり}拘りを持って創りたいです。が、事務仕事は、愉快簡単にサラリと行きたいです。労力を事務仕事で使い切りたくありません。

人間関係は、緩く締付けないのはいいけど、やることはやっていたか^{あと}ないと不愉快が痕をひくよね！つまらなかった行事で終わってしまいます。そして、次回の行事にも引きずります。毎回、あることですが、下記述は交流学習会で実際にあった出来事です。

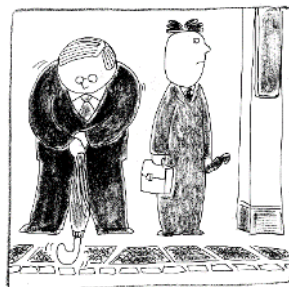
受け付けでのことです。責任者に申込書が届いていないのに会場に参加していてビックリ仰天して聴いてみると。「チョット前に口頭で〇〇〇さんに、確認しただろう」「その時も伝えたと思いますが、申し込み用紙もしくは、その書式でFAX又はメールでください！といったはずですが？」「毎回同じだからどんなかたちでも伝えればいいだろう」という問答です。

申し込み用紙があればその内容が知りたいので書いてほしい、確認したい事柄なのにほんとに同じか？手を抜き過ぎでは？その分、誰かに負担掛かるのを当然 知った上で社交的ゴメンしておいて同じ事を繰り返す。これは、スキー協らしさでいいことだろうか？一人がこれやると周りの何人かは真似る。立派な負の組織首謀者です。

こうなってしまった組織をどう立て直すかを皆に問いたい。

その人を排除してもよくはならない。同類者同士で自覚させ、組織して更生させるしかないよね！めんどくさいけど。

そして、ビラ自体が必要なものではないからなのか、それともビラ自体が見るに、値しないものなのか？なのに「必要なことが書いてない」と言われる。しかし、問い合わせはなぜかない？内容と担当責任者は、把握しているかと、問うと「ビラをなくした」「忘れた」「届いていない」といわれる。事前に「ほしい」とも言ってこない。これは、スキー協 組織のピンチです。



- これがないと申し込めない重要な活用をする書類なら 扱いが違って来るだろうか？
- いつも、書いてある内容が想像できるビラしか作っていないのか？

- ・締切等 守られなかったら金銭的なペナルティーがかかると違うのだろうか？
- ・会議中に配られる 不要な印刷物が多すぎる からか？
- ・申込書を受け付けた、返信を出す習慣を付ける そしたら なくなるのか？
- ・参加者の情報収集の一手段、ビラを見て自分なりに考えて、最良行動を何故しない？
- ・行事終了後の反省時に次回、下案をつくって終わりたいです。

今後 作るのなら大切にされる、見る側のビラをつくりたいです。ご協力ください！！

今回出来たスノーフェスティバルのビラは、現フェスティバル実行委員会の知恵の結晶です。皆さん大事にしてください。

アルペン競技用語解説⑩《大会の仕方6》 大会の準備3

大会前日には現地入りするのが普通です。そこでバーン状態・現地との確認・機材運びやセットを行います。大きな大会ではそれ以前に現地入りします。SGや大きな大会ではコースオープンや公式練習をします。その前ということになります。ふつう前日に選手・監督会議をします。そこで説明・確認・承認が行われます。また、ワールドカップなどドロー（抽選）のある場合はそこで行います。もちろんこの結果から大会に向けて大忙しで準備します。

ドローの仕方

まず出場選手の確認をします。棄権に診断書の必要な場合もあります。第1シードの選手（15人が多い）のダブルドロー、つまり選手の番号と出走順の両方のくじを引いてきめる。第1シードが済んだら多くはポイント順に出走の順番を決めます。同ポイントの場合選手の札をくじとして使って決めます（シングルドロー）。だからポイントが大事になります。このレースは何月何日までのポイントが有効等で決まっています。

スノーフェスティバルや第2戦の抽選も愛知スキー協会の事務所でダブルドローのようにピンポン玉に番号の書いたものを箱に入れてそれを引いて出走順を決めていました。その後サイコロ（8・10・12の目のサイコロがある）を振って決めていました。今はランダム係数を使って決めています。

ポイントで出走順が決まるのでポイントが得られる大会に特に得やすい大会に中学生から血眼になるわけです。小学校高学年もそうでしたが今年から小学生のポイントによるレースをなくようにしています。

今後の予定

- フェスティバルのチラシを職場・行きつけの店・友達に配ろう。いつも携帯あうひとに。より詳しく知ってもらおう。事務所にあるよ。足りなくなったらすぐ送るよ。11月3日スキー場・中村館下見行きます。紅葉・温泉楽しめるよ。行きたい方寺田まで連絡をしてください。
- 第22回山スキーのつどい チラシ配布済み 当日参加もOKできれば連絡を
11月14日19時～21時 ウィンクあいち906 講師小峰邦良さん
参加費（1500円）親睦会もあるよ（3000円）
- 初滑りin菅平 11月14日・15日（1・5泊） チラシ同封
今年は日程を一週間遅らせました。きっと菅平で滑れます。
初めての人を誘ってこよう。うまくなるよ。
参加の連絡は、文書・メール・ファックスで確実に。

熱気球体験出来ました 深雪スキークラブ

10/19（土）郡上八幡自然園の山荘で合宿し、翌日の10/20（日）は早朝から熱気球と水陸両用クルーズ体験、そして母袋烏帽子岳ハイキング、最後は温泉で疲れを癒やしてと盛沢山の2日間でした。参加者8名、熱気球は午前7時～9時まで、風があると中止する場合もあるとのこと。会場が郡上なので前日から行って近くの郡上八幡自然園の栗の木荘で宿泊。

10/19（土）雨はやみましたが曇っていて星空観察は出来ませんでした。残念。

10/20（日）晴天。7時、歩いてすぐ隣の熱気球会場へ。ガスバーナーで暖めた空気で気球が膨らみ始めていました。大きい！ ポーと音をたてるバーナーの炎も迫力があります。気球につないだカゴに乗り込むと徐々に上がって行き、50m。上から見る景色いいですね。下るときは気球の上の一部が開いて空気を逃がし、バーナーで調節しながら降りていきました。ほんの5分くらいですが面白かったです。

次は水陸両用クルーズです。これは3人で乗りました。タイヤがでかい！ 走り始めると結構スピードがあり、横を流れる長良川へ。川では岸辺の石の上をドンドン揺られながら、芦の茂みをかき分けながら進み、水路を少し渡っただけで帰って来ました。担当者が「今、漁業組合長が来ているので魚を驚かすとまずいので川の中へ入りません」とのこと。残念。私は気球よりこちらの方がスリルがあり楽しかったです。

7人は山へ、1人は郡上市内観光にと分かれて自然園を出発。

母袋烏帽子岳の登山口9時35分発。標高1340m、標高差540mの手軽なハイキングコースと想像していたのですが、時々傾斜がきつい箇所があり、汗をかきました。途中で見晴らしのいい所から御岳山が見えました。11時半頂上着。郡上米のおにぎりで昼食休憩。「急斜面は少し離れて歩いてね」と山根さんから注意があり、慎重に歩いて下山。やまと温泉やすらぎ館で温泉入浴。観光してきた宮田さんと合流し、帰路につきました。

以下は帰りの車中での一言感想です。



熱気球に乗り込んで今から上空へ

宮田さん「熱気球は3度目の挑戦で実現しました。水陸両用車もやってみたかったので2つとも出来て良かったです。郡上市内観光は1万歩も歩いて頑張りました。お城にも行けたし、良かったです。」

山根さん「熱気球に興味があったので出来て良かった。山はあんなものですかね」

富野さん「熱気球は炎が熱かった。」

水陸両用クルーズは水の中がほんの少しでつまらなかった。山は疲れなかった。まあ良かった。」

寺田さん「今度はもっと高く、もっと長く1時間くらい乗りたくなった」 （浅井記）



水陸両用車

現在、愛知のスノーボード部に所属しているのは、寺田康平と澤田知希の2人だけです。今年のオフシーズンは小規模ならではの機動力を活かし、ボード部以外の人も巻き込みつつ活動してきたので、紹介します。

① 8月31日 筏釣り(伊勢志摩) 参加者数：4人

筏釣りとは、海上に設置されているイカダの上で行なう釣りのことです。本命はチヌ(クロダイ)ですが、その他にもいろんな魚が釣れます。澤田安利、知希、藍雅、寺田康平の4人で行って来ました。今回、4人中3人が筏釣り初挑戦でしたが、朝6時頃から午後4時頃までで合計74匹釣れました！残念ながら本命のチヌは釣れませんでした。マハタやアジ、サバ、チダイ、アイゴ、カワハギなどいろんな魚が釣れました。釣った魚はもちろん持って帰っておいしく頂きました！



② 9月15日 ハゼ釣り(半田) 参加者数：4人

澤田安利、知希、寺田康平、他1名で半田衣浦に行ってきました。朝7時頃から釣り始め、お昼は釣ったハゼをその場でさばき、唐揚げにして食べました。釣ったその場で食べるハゼの唐揚げは最高でした！



③ 9月28日 筏釣り(伊勢志摩) 参加者：5人

澤田安利、知希、寺田康平、他2名で筏釣りへ。前回より当たりが少なく苦戦しましたが、眠気に耐えて続けているとアジが釣れ始め、本命のチヌや美味しいと噂のサンバソウ(インダイの若魚)も！！テンションも上がり、夢中になって釣りを続けていると、ある時「スカリがない！！」という叫び声が... なんと、釣れた魚を入れておく網が魚ごと流されてしまっていました。そんなハプニングもありましたが、終了時間ギリギリまで釣って、近くの筏のたくさん釣れたおじさんからおそそわけも貰い、今回もお家でおいしく頂きました！

④ 10月19日～20日 うどん行脚(四国) 参加者：4人

澤田安利、知希、寺田康男、康平でうどんと鰹を食べに四国へ行ってきました。

1日目は淡路島を渡って四国に入り、徳島ラーメン「巽屋」からスタート。徳島のうどん屋「みのり」、香川に入り、山奥にある製麺所「谷川米穀店」、「上田うどん店」、「山下うどん」、うちの港ミュージアムで小休憩をして、締め「長田 in 香の香」の釜あげうどん。高知に移動して、夕食は高知市街で飲み歩き。鰹は刺身もタタキも絶品！四万十栗豚のわら燻しに高知の地酒も最高でした。

2日目はまた香川に戻り、「純手打ちうどん よしや」、「麦香」、1日1時間しかやっていない「日の出製麺所」、「宮武うどん」、「こだわりの手打ちうどん 山」、「うどんや まるちゃん」といっきに6件はしご！香川のうどんはコシも味も香りも絶品でした。

ボード部は今後もシーズンオン・オフ通して活動していきます。一緒に遊びにいきませんか？

